

photopos

2014.10.21 ~ 2014.11.6

【神秘学ポエジー～風遊戯 第6集】

photo ヴァージョン

神秘学遊戯団

感情のカオスは
ときに土石流となって
私を壊してしまう

水を穏やかに導き
土を静かなタペストリーにする
堰を築いておくことだ

わが感情のカオスよ
流れを導き形を育て
光と風と水の交響を踊れ



*岡山県真庭市上蒜山登山口付近・湯船川に設けられた堰堤（えんてい）
堰堤は、貯水・治水・砂防などの目的で、河川・渓谷を横断してつくられる堤防・ダム。

photopos-52

2014.10.22



花も人となり
人も花となる

花の人よ
恋せよ

恋の人よ
花となれ

花となって
恋を踊れ

星のように
神秘の文字のように

【昼顔／容花（かほばな）】

万葉集では、昼顔（かきつばた、むくげ）を「容花（かほばな）」（顔花／貌花）と詠んでいる。

美しい花の意とも。万葉集に詠まれた歌（次の4首）はいずれも恋の歌。

「高円の野辺のかほ花面影に見えつつ妹は忘れかねつも」

「石橋の間々に生ひたるかほ花の花にしありけりありつつ見れば」

「うちひさつ宮能瀬川のかほ花の恋ひてか寝らむ昨夜も今夜も」

「美夜自呂のすかへに立てるかほが花な咲き出でそねこめて偲はむ」

*カフェ・トーチカの入り口の近くに、先日さりげなく咲いていた昼顔

まばゆい光のなかでは
決して見ることのできない星のように
魂の花は静かに微笑を生きている

その微笑を生きられる人は幸いだ
その気高き光で魂は豊かに育つだろう
みずから歩むことのできる人は幸いだ
はるか遠くまで旅する糧を得るだろう

星のような花として
花のような星として



【節分草（せつぶんそう）】 広島県庄原市（旧総領町地区）での自生地にて
石灰岩地帯を好み、落葉樹林内の斜面などにまとまって自生する。乱獲や自生地の環境破壊によっ
て希少植物に。高さ 10 センチほどの小さな多年生草本。花卉に見えるのは萼片。和名は、早春
に芽を出し節分の頃に花を咲かせることから。花言葉は、気品・ほほえみ・光輝・人間嫌い。

photopos-54

2014.10.24



霧のときは
霧のなかで

過ごすのが
よろしかろう

知のときは
知なりに

情のときは
情なりに

測れぬものは
測らぬままに

語れぬことは
語らぬままに

ならぬときには
ならぬように

ならぬようには
ならぬから

*三瓶山の裾野から近くの山々を臨む

*良寛「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。

是はこれ災難をのがるゝ妙法にて候。」

空はどこか
心の景色に似ている

photopos-55
2014.10.25

晴れ 曇り 雨
そして不意に嵐

鳥も飛べば
未確認飛行物体さえ
浮かんでは消える

ときおり山の上から
心の空 広がる海を
見渡してみるといい

心のシネマが
私の顔をして
現象している

ショータイムが始まる！
見られているのは私
見ているのはだれ

だれでもない私が
どこでもない場所で
大きく息をする



* 広島県呉市蒲刈町大浦・七国見山（ななくにみやま）の物見橋公園、「物見岩」付近から瀬戸内海を臨む。

photopos-56

2014.10.26



恋するとき
精霊たちは踊る
つかのまの春を

精霊たちが去ってしまうと
私たちはその踊りを
思い出すことさえできなくなる

愛するとき
聖霊たちは歌う
永遠の調べを

真実の愛は去ることがない
聖霊たちは私たちのなかで
恋の痛みさえ永遠の調べに変え
精霊たちも永遠を踊りはじめる

【カタクリ（片栗）】岡山県鏡野町富村大地区で自生

ユリ科カタクリ属に属する多年草で、春の野草。種が落ちて花が咲くまで7～8年かかる。開花期間は2週間ほど。

ニリンソウなど同様の植物とともに「スプリング・エフェメラル」（春の妖精）と呼ばれている。花言葉は「初恋の花」。

*万葉集には「堅香子（かたかご）の花」と詠まれている。

「もののふの八十娘子（やそおとめ）らが汲み乱（まが）ふ 寺井の上の 堅香子の花」（大伴家持／巻19 - 4143）

わたしの心の
赤い花

またたく星の
赤い花

ひとつ咲いては
地に降り落ちて

ひとつ咲いては
地に降り落ちる

落ちた花とて
なんとしょう

わたしの大地に
敷きつめられて

いちめんのいちめんの
燃ゆるいのちの海原に

わたしは海に漕ぎ出でて
あなたに会いにゆきまする

果てない彼方で待つという
あなたに会いにゆきまする

わたしの心の赤い花
咲かせたあなたに会いにゆく



【囃勝寺（こくしょうじ）の椿】岡山県矢掛町

真言宗・神遊山囃勝寺の創建は、西暦 726 年（天平勝宝 8 年）。吉備真備公によって作られたといわれている。この寺にある樹齢が約 350 年の大椿は、高さが約 6m、枝は周囲に約 9m も広がり、樹の下に椿を敷き詰めたベルベットの絨毯のような状態になる。

photopos-58

2014.10.28



頭を垂れないでよくなった稲穂たちが
思い思いに日向ぼっこしている

頭がからっぽで軽いから
気持ちいいのだろう

頭がいいとか腰が低いとか
とにかくこの世は窮屈だ

頭くらいは軽くして
馬鹿に見えるくらいがちょうどいい

* 岡山県総社市國分地近くの稲刈り後の風景から

photopos-59

2014.10.28

考えないことはむずかしい
考えないことさえ考えてしまう

草がゆれる
花がゆれる

見ないことはむずかしい
目を閉じるとよけいに見てしまう

風はしずかに冷たくそよぎ
陽はしだいに翳ってくる

ただそれだけのことで
わたしはいなくなることができない

ただそれだけのことで
わたしというキャンバスは現象をやめない



*岡山県総社市国分寺近くの秋景色のなかで

先に進むもひとつ
立ち止まるもひとつ

道を選ぶもひとつ
道をつくるもひとつ

道は限りなく分岐し
迷宮世界となっていく

私はどこから来て
どこに行こうとしているのか

幾度も繰り返される問いがあり
道の途上に咲く花がある



【ミツマタ（三桠）】岡山県鏡野町富村・真庭市落合の各所にて

ジンチョウゲ科ミツマタ属の落葉低木。中国中南部、ヒマラヤ地方原産。皮は和紙の原料として用いられる。ミツマタの名は、枝が必ず「三叉」、すなわち三つに分岐する特徴があることから。春を告げるように、一足先に淡い黄色の花を一斉に開くことから、万葉では「サキサク」と詠んでいる。『三枝（さえぐさ）』という姓の語源。オレンジ色や朱色の花のものは、「赤花三桠（あかばなみつまた）」。

*「春されば まづ三枝の 幸くあらば 後にも逢はなむ 恋ひそ吾妹」（柿本人麻呂）

photopos-61

2014.10.30



火の妖精のように
私という現象よ
ゆらめき踊れ

みずからは燃えず
木を燃やす炎のように
私は姿を変幻させながら
熱と光を放っていく

木の燃え尽きたとき
炎はどこに
生ける世界の失せた後
私はどこに

私という現象は
不可思議の炎のように
かつ現れかつ消え
無常を往還してゆく

* 岡山県立森林公園・森林公園管理センター内の暖炉

photopos-62

2014.10.31



こんがらがった根っこにも
それなりの事情があり
紆余曲折の私にも
それなりの事情がある

常識で見るのはやめておこう
ときに真実が隠されてしまうから
正しいとされる道を求めるのはやめておこう
ときに白黒を探すだけになってしまうから

迷路なりの現実に
じっくりとつきあうのがいい
小説より奇なりとならば
奇のほうへ旅しようじゃないか

*岡山県立森林公園にて

色のなかへ
うつろいのなかへ

光はその戯れのなかで
葉の熱を舞踏へと誘い
風はそのうつろいのなかで
葉のこぼれを音楽に変える

色は四大の妙なる技
新しい化学を求めよ
うつろいは変容の技
新しい自然学を求めよ

呪文が唱えられると
世界はいちめん
色のタペストリーとなり
フィナーレへと疾走していく



photopos-64

2014.11.2



道は果てない
一歩一歩
ただ歩いて行く

その先に何があるのか
道は見えない

そこがはじまりだ
そこからが私の道

敷き詰められた過去を
一歩一歩踏みしめながら
私はまだ見ぬ道を詠い
新たな絨毯を広げていく

なぜ世界はあるのか
なぜ私がここにいるのか

問いそのものを生きるために
ただ歩いて行かねばならない
はるかにはるか彼方へと

*岡山県立森林公園にて

photopos-65

2014.11.3

私は樹のようにそこに立ち
何かを求め求め枝を伸ばし
葉を茂らせやがて色づき
そして燃え尽きてゆくだろう

幾度も幾度も繰り返されたように
魂は限りなく舞い続けるだろう
求めてきたものたちの無常を歌い
やがて訪れるものへの祈りにかえながら

祈りがどこへゆくか
私は知らない
私がどこへゆくか
私は知らない

私は樹となってただそこに立ち
みずからを見守る者ともなって
繰り返されてゆくみずからの戯れを
ともに喜びともに悲しみ歌ってゆくだろう



一段一段
上っていく

枯葉を踏みしめ
枯葉が積もるように

一段一段
私は別の私へ

無数の私を
つないでいく
階段という橋

つなぐのは
この脚
つなぐのは
この魂

上ることができるためには
下りることができなければならない

上っては下りて
下りては上って

無数の私が
一段一段
私と私をつないでいく

それぞれの私を刻みながら
枯葉が呼応し交響するように



* 鳥取県大山・大山寺周辺散策道にて

* 階段は、日本語の古語および雅語では、「きざはし（階）」（きざ:刻/はし:橋）。

photopos-67

2014.11.5



石と石とのあいだには
枯葉の文字が描かれる

私は文字を辿りつつ
石の畳を歩きます

枯葉の文字は季節のめぐり
語って歌って消えてゆく

心に雨の降るときは
石の畳を歩きます

石と石とのあいだへと
雨も流れて消えてゆく

ぬかるむ道に負けぬよう
石の畳を歩きます

*鳥取県大山・大山寺周辺散策道にて

photopos-68

2014.11.6

魔物は襲ってくる
逃れるすべはない

逃げれば逃げるほど
追いかけてくる
私の心が魔物だからだ

私が黒を厭うとき
私は黒の魔物になる
私が白を厭うとき
私は白の魔物になる

世界は私の鏡となって
私は私という魔物と戦っている

*鳥取県大山・大山寺周辺散策道にて



photopos-69

2014.11.7



樹が笑っている
岩が恋している

こんな花咲くような秋の日には
夢の時間がひらかれる

夢を見ているのか
夢に見られているのか

私は樹となり岩となって
光と色を遊んでいる

* 鳥取県大山・金門からの景色

photopos-70

2014.11.8



* 鳥取県大山樹水高原にて

空に向かって
風のように
背伸びをしてみるけれど
この手は空には届かない

星に向かって
光のように
駆けていこうとしてみるけれど
この足は星には届かない

あなたに向かって
花のように
愛を届けようとしてみるけれど
この心はあなたには届かない

それでも私は
小さな子供のように
ただただ求め問い続けるのだ
限りない世界の謎に向かって

photopos-71

2014.11.9



風をください
私の心を回す風を

光をください
私の愛を潤す光を

闇の中でも歩けるように
迷路の中でも迷わぬように

鳥はやがて訪れるだろう
星はやがて光をもたらすだろう

静かに耳をすませ
その言葉を聴き取ることだ

天に響いている秘密の音楽を
地に満ちている創造の言葉を

* 鳥取県大山町・風力発電用風車の夕景



【羅生門 (らしょうもん)】

岡山県新見市草間。鍾乳洞の天井が陥没し、残った部分が天然橋になったもの。

*芥川龍之介の小説の「羅生門」は、『今昔物語集』の「羅城門登上層見死人盗人語第十八」を基にして書かれ、生きるための悪という人間のエゴイズムを克明に描き出したもの。黒澤明の映画『羅生門』は芥川龍之介の短編小説『藪の中』を原作とし、『羅生門』からエピソードを取り入れている。

潜るか潜れぬか
魂に門がある

潜るか潜れぬか
みずからがそれを決する

みずからを善しとし
後を振り返らず潜ろうとする者あり

みずからを悪しとして
後を振り返り続け潜れぬ者あり

振り返らぬ者は潜れず
振り返る者は潜ってゆく

潜る潜れぬ秘密の鏡
魂の門の摩訶不思議



【秋吉台（あきよしだい）】

山口県美祿市中・東部に広がる日本最大のカルスト台地

* 坂口尚の長編漫画『石の花』：第二次世界大戦時、ナチス・ドイツの侵攻を受けたユーゴスラビアを舞台にした作品。その後独立したクロアチア共和国はルドルフ・シュタイナーの生誕地にある。民族間の激しい対立を通じ、正義と悪が相対的であって、そうした民族意識を克服するためには「想像力」が大切であることを描いている（と個人的には理解している）。タイトルは、生徒たちがフンベルバルディンク先生に引率されて訪れたポストイナ鍾乳洞（世界最大級鍾乳洞）から。先生が「これは石の花じゃない！花に見ているのはぼくたちのまなざしなんだよ」と語っているのが印象的。

石の花が咲いている
彼方まで続いている

石の花を咲かせるのは
わたしの魂の力だ

魂の力が衰えたとき
石の花はただの石塊に変わる

わたしは正しいという目で
石を石塊としか見ない

戦いをなくすためには
正しさを疑わねばならない

あなたの正しさと
わたしの正しさが
白と黒のリヴァースになって
互いを反転させあう愚かさを

photopos-74

2014.11.12



その柱は立つ
私の見えない中心に

天空の彼方へ
大地の底へ

柱は天と地をむすび
亭々と聳え
年輪を刻んでいる

柱は宇宙のロゴスを奏でているのだ
私という存在の秘密を

【秋芳洞（あきよしどう）の「黄金柱」（こがねばしら）】

秋芳洞：山口県美祢市東部、秋吉台の地下 100-200m にある鍾乳洞

黄金柱：高さ約 15m の巨大な石柱状フローストーン

photopos-75

2014.11.13



闇をゆくときには
足下を照らしながらゆけ
みずからが灯りとなってゆけ

光をゆくときにも
魂を照らしながらゆけ
光の中でも星が見えるように

どんな闇や光のなかでも
みずからを照らしながらゆけ
一步一步が羅針盤ともなるように